

これからの理科教育

The expectation for the contents of 'Rika' in the new ministry's curriculum guideline

田代 直幸 [1]

Naoyuki Tashiro[1]

[1] 国立教育政策研究所

[1] National Institute for Educational Policy Research of Japan

2月13日に、中央教育審議会の教育課程部会から審議経過の報告があった。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06021401/all.pdf

この審議経過は、平成17年2月15日に行われた中央教育審議会総会第47回において、中山前文部科学大臣があいさつとして述べた「学習指導要領の見直しに当たっての検討課題」を受けたものである。

中山前文部科学大臣は、そのあいさつの中で、下記の4点を検討課題としてあげた。

1. 「人間力」向上のための教育内容の改善充実
2. 学習内容の定着を目指す学習指導要領の枠組みの改善
3. 学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の実現など指導上の留意点
4. 地域や学校の特色を生かす教育の推進

また、『1. 「人間力」向上のための教育内容の改善充実』については、1) 社会の形成者としての資質の育成、2) 豊かな人間性と感性の育成、3) 健やかな体の育成、4) 国語力の育成、5) 理数教育の改善充実、6) 外国語教育の改善充実にあげている。

審議経過報告は、これらの検討課題を受けてのものであるので、理数教育の改善充実についても項を設けて記載しているところである。しかし、具体の改善充実については明確に打ち出されているわけではない。

一方、義務教育段階における教育課程実施状況調査の質問紙調査においては、理科が好きな児童・生徒の割合は、他教科に比べて高く、旧学習指導要領よりも現行の学習指導要領において増加の傾向が見られる。しかし、「理科が大切である」と思う児童・生徒の割合は、他の教科との比較においても相変わらず低い。

「科学技術創造立国」という言葉は繰り返されるが、成人においても「科学（理科）が大切である」と思う割合は楽観視できる状態ではない。

このような現状認識のもと、新しい学習指導要領における理科教育とはどのようなものでなければならないのか。その理念や方向性について、また、現状の作業について、できる範囲で情報を提供したい。